

わがままに生きる

～明治大学マンドリン倶楽部 OG の女性弁護士より～

弁護士 大島 わかな

(明治大学 2006 年卒)

本日は明治大学マンドリン倶楽部の定期演奏会にご来場いただき誠にありがとうございます。私は 2006 年 3 月に卒業しました、明治大学マンドリン倶楽部の OG です。NHK 連続テレビ小説「虎に翼」で日本初の女性弁護士がモデルとなり注目が集まる中、鳥取県も明治大学卒で日本初の女性弁護士の一人である中田正子先生が活躍された地。そして私は、明治大学マンドリン倶楽部卒業生初の女性弁護士ということで、「初」に天と地ほどの差があり大変恐縮ではありますが、私の卒業後の歩みについてこのたび寄稿させていただくこととなりました。明治大学校友会鳥取県支部の皆様、貴重な機会をいただいたことにこの場を借りて御礼申し上げます。

現役時代はマンドラを担当していました。平日の練習、土日の近県での演奏会、長期休暇中の合宿と日本全国を巡る演奏旅行という超過密スケジュールを何とかこなし、甲斐先生ご指導のもと、まさに音楽に明け暮れた 4 年間でした。

そのような私の最初の転機が大学 4 年生の初め頃、大切な人がトラブルに巻き込まれた経験から「身近な人を守る存在になりたい」と弁護士を志望するようになりました。しかし当時はマンドラのトップリダーであり、マンドリン倶楽部も全力でやり遂げたい。その思いを両親に相談したところ、「どちらも応援するからまずは今をやり切ちなさい。」と背中を押してもらうことができました。そして卒業後、1 年間浪人をして中央大学ロースクールの未修者コースに入学。3 年間死に物狂いで勉強し、卒業した 2010 年に無事司法試験に合格。1 年の修習期間を経て、2011 年に修習地であった山梨県で弁護士登録をしました。

私が在籍していた当時のマンドリン倶楽部は、応援団の音楽部版のような雄々しさがあり、男女比でも部内の諸ルールでもまさに男社会（私が入会した数年前までは女人禁制でした！）。そして卒業後に私が足を踏み入れた法曹界も当時はまだまだ男社会。しかしながら、周りの方々に恵まれていたため、独身時代の私が「女」であることを意識することは特段ありませんでした。むしろ、男性と同じだけ活躍をした際に「女の子なのにすごい」と男性以上に評価される経験を重ねてきたように思います。

そのような私の二度目の転機は 37 歳。弁護士業においては自身の専門のような分野ができ新たなやりがいを感じているころでした。また、地元の甲府青年会議所に入会したことで仕事以外の分野におけるつながりが形成され、年々役職も重ねているこ

ろでした。そのような中、交際相手との間に子どもができ、結婚出産という人生の最大イベントを迎えました。当然のことながら私の生活は一変し、弁護士業は大きく縮小させざるを得ず、青年会議所活動は事実上終えるつもりでいました。生まれてきた娘との幸せな時間を感じる傍ら、自分が積み上げてきたものを手放すような寂しさがあったのが正直なところです。「母親だから仕方ない」と諦める覚悟をしました。

しかし、青年会議所の2023年の理事長を決める際、ともに活動してきた友人の「誰かがやるからいいではなくて、大島さん『に』理事長をやってほしい。」という一言に、私は大きく突き動かされました。この地域に対して自分にしかできないこと、自分だからできることがあるのではないかと。母親だから諦めるのではなく、母親としてどうやったらできるかを模索してみたい。

理事長の任期は1年間です。夫に相談し、1年間私を支えると言ってもらえたので、私は娘が1歳になる年に、理事長を受けました。甲府青年会議所の初の女性理事長でした。また同時にセーブしていた弁護士業も可能な限り再開させ始めました。

弁護士業に、青年会議所活動に、子育てに、本当に大変な1年でした。スケジュールや業務量からくる大変さにはあまり辛さは感じません（マンドリン倶楽部で鍛えられたため）。辛かったのは、「こんな母親でいいのか」という自分自身の中での葛藤でした。寝かしつけの時間に一緒にいられることはほとんどなく、気づいたときには娘は完全なるパパっ子に。それをなかなか受け入れられなかったのは、誰よりも私自身が「母親とはこうあるべき」というジェンダー観にとらわれていたからでした。しかしそんな私を周りの方々は本当に温かく応援してくれました。甲府市より「女性活躍推進チャレンジ女性」として表彰もいただき、「わがままに生きていいんだよ」と背中を押していただいたようでした。

無事1年の任期を終えましたが、今年も弁護士業と子育てで忙しい日々を送っています。娘はもうすぐ3歳。パパもママも大好きで、元気いっぱいに育っています。夫とは5：5の家事分担を目指し、何度も話し合い、時にはけんかもしながら、協力し合って子育てしています。

現役の皆さんも社会に出て様々な選択の場面が訪れるかと思います。そのときには諦めるのではなく、どうやったらできるかをまず考えてみてください。不安でも飛び込んでみるとどうにかなるもので、頑張っているあなたにきっとまわりは手を差し伸べてくれます。一度しかない人生です。「わがまま」、あなたのままでいいのです。

結びとなりますが、本日の演奏会の成功と、皆様が今後ますます「わがまま」に、幸せに、生きていかれることを心より祈念しております。